

第18表 学級編制別学級数

(昭39.5.1現在)

	実比	数率	単式	複式				計	単級	総数
				2個学年	3個学年	4個学年	5個学年			
小学校			468 66.1%	141 -	65 -	16 -	- -	222 31.4%	18 2.5%	708 100.0%
中学校			246 95.9%	5 -	- -	- -	- -	5 1.9%	7 2.8%	258 100.0%

これら単級、複式の望しくない学級数は、小学校33.9%、中学校4.7%にのぼっている。こういう授業の困難性は、以前から指摘されている点であって、特に小学校で40%もの学級が存在することは、へき地校の学習指導上の大きななやみとなっている。したがって、可能な限り学校統合を図り、小規模校の解消につとめることが重要な課題である。

## (3) 学 力

へき地の児童生徒の学力を全国学力調査の結果からみると第19表、第20表のとおりである。

第19表 へき地小学校学力調査平均点

(昭和39年度)

	第 5 学 年			第 6 学 年		
	全 県	へ き 地	差	全 県	へ き 地	差
国 語	56.2	45.1	-11.1	57.3	44.8	-12.5
算 数	42.0	32.0	-10.0	34.0	22.8	-11.2

第20表 へき地中学校学力調査平均点

(昭和39年度)

	第 2 学 年			第 3 学 年		
	全 県	へ き 地	差	全 県	へ き 地	差
国 語	51.8	44.6	-7.2	49.0	42.2	- 6.8
社 会	33.7	24.6	-9.1	43.0	36.0	- 7.0
数 学	34.8	26.0	-8.8	35.6	25.6	-10.0
理 科	33.8	27.6	-6.2	32.6	26.2	- 6.4
英 語	39.7	30.5	-9.2	40.8	30.0	-10.8

小、中学校ともへき地が全県に比し平均点で10点程度低くなっている。これは、へき地児童生徒の得点分布が、低い方に集中するためによるものであるが、子細にみると得点が、とびぬけて高い者がかなりいることも事実である。

へき地の条件を整備して、へき地の児童、生徒ひとりひとりの能力と個性に即応する指導を展開して、学力を一層向上させることが肝要である。

## (4) 通 学 状 況

子供が通学のために受ける疲労は、学習の上にも、健康の上にも大きな影響を与えるものである。へき地児童生徒の通学状況についてみると第21表のとおりである。